

図画工作科 学習指導案

第6学年

I 題材 光の彫刻 (立体に表す)

II 考察

1 題材観

(1) 学習内容：学習指導要領上の位置付け

A表現(2) 感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことを絵や立体、工作に表す。

(2) 培われる主な資質・能力

- ・表したいことを表すことに興味をもち、自分の思いをもって取り組もうとする態度
- ・感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことから、表したいことを見付けたり、形や色、用途や計画などを考えたりする力
- ・自分の表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かして使うとともに、表現に適した方法を選ぶなど工夫して表す力
- ・感じたことを話したり、話し合ったりしながら、形や色、表し方の変化、表現の意図や特徴などをとらえ、よさや美しさを感じ取る力

(3) 題材の価値

本題材は、LEDライトに載せて光の効果を確かめながら、メラミンスポンジを自分の表したいことに合わせてダンボールカッターで切ったり、ストローでつなげたりして立体に表す学習である。その価値は以下のとおりである。

本題材は、つくった形と光の関係を意識して、予想したり、試したりすることを繰り返すことができるものである。特に6年生では、材料や用具の経験を生かして、材料や用具の特徴を生かした効果を予想することができるため、自分の思いを追求して表すことができる題材である。

まず、メラミンスポンジは、カービングの経験が少ない子どもたちにとって、ダンボールカッターや皮ポンチで容易に加工することができ、削る感触に適度な抵抗感があるため、カービングの面白さを感じ取り、興味をもつことができる。また、光を扱うことは、光そのものや、そこにできる陰影の美しさを感じ易いものである。そのため、光の微妙な表情の変化に関心をもち、自分の思いに合わせて立体に表すことができる。

次に、メラミンスポンジは、光が内部に溜まるように面がぼんやりと光り、エッジが暗くなる特徴から、つくった形と光り方の関係が明確であり、自らの働きかけによる光の表情の変化を捉え易い。そのため、メラミンスポンジの切り方や、つなげ方による光の効果の違いを捉えて、試行錯誤を短時間で繰り返し、自分の表したいことを考えることができる。

また、カービングでは、加工したものは元には戻らないため、活動の段階ごとにできたものを意識して見直し、新たに自分のつくりたいものを工夫してつくる必要がある。そのため、活動の段階ごとに光の効果を確かめて、自分の表現を見直したり、予想したりしながら、自分のイメージに合う光の彫刻になるように工夫して表すことができる。

さらに、つくったものを光らせる前と光らせた後の印象の違いから、光の効果に目が向き易い。

そのため、自分や友達作品を見比べて感じたことを話し合うことで、形や色、光のよさや美しさ、表現の意図や工夫などを捉えることができる。

(4) 今後の学習

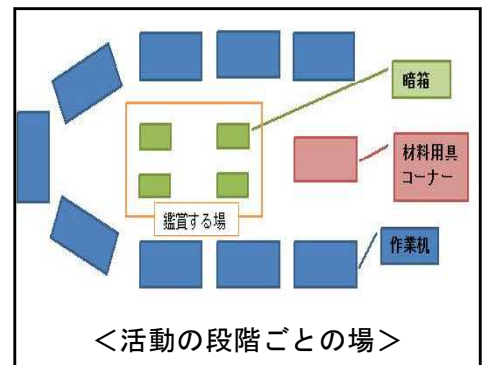
ここでの学習は、6年「ストップ そのいっしゅん（立体に表す）」での、人物の動作とその周りのものとの関係を考え、材料の使い方や紙粘土の加工方法を工夫して、動きのある人物とその周りの様子を立体に表す学習へと発展していく。

(5) 共通事項との関連 ※指導と評価の計画参照

2 児童の実態及び指導方針

子どもたちは、5年「そっくりにつくろう」において、それまでに経験した材料、用具、表現技法を生かして、自分で考えた表現方法で、ケーキやうどんなど、自分のつくりたい食べ物をそっくりに表す学習に取り組んできた。この学習の中で明らかになった子どもたちの実態及び本題材を進めるにあたっての指導方針は、次のとおりである。

- ・経験した材料、用具、表現技法を組み合わせること楽しみながら、つくりたい食べ物をそっくりに表現することに進んで取り組むことができている。このような子どもたちが、光の微妙な表情を感じ取り、自分なりの思いをもち進んで取り組むことができるよう、これまでの学習で経験したことのある光を通す素材をLEDライトに載せて試す時間を設定する。
- ・つくりたい食べ物に合わせて、質感の違いなどから使う材料や表現方法を思い付くことができている。このような子どもたちが、初めて経験するメラミンスポンジを切る感触の心地よさを感じながら、加工の仕方や形による光の効果の違いを捉えて、つくりたい光の彫刻を思い付くことができるよう、自由に切ったり、光り方を試したりする活動を設定する。
- ・食べ物をそっくりに表すための表し方に合わせて材料や用具を選び、適切に扱って工夫して表すことができている。このような子どもたちが、自分のつくりたい光の彫刻になるように、光の効果を予想したり、暗箱の中で光り方を試したりしながら、メラミンスポンジの加工の仕方やダンボールカッターや皮ポンチなどの用具の扱い方を工夫することができるよう、光り方を確かめながら、自然に友達と交流して表現を見直すことができる活動の段階ごとの場を設定する。
- ・自分や友達作品の、そっくりに表すための材料や用具の選び方、表現の工夫について気付いたことを友達と話し、作品を楽しんで見ることができている。このような子どもたちが、光とメラミンスポンジの形から生まれる作品のよさや美しさや、自分や友達作品の表現の工夫について気付くことができるよう、全員の作品を胸の高さに展示した鑑賞する場を設定する。



Ⅲ 目標及び評価規準

Ⅳ 指導計画 ※Ⅲ・Ⅳについては、指導と評価の計画参照

Ⅴ 本時の学習

- 1 ねらい メラミンスポンジの切り方や、つなげ方、材料の組合せ方を工夫して、自分のつくりたい光の彫刻をつくる。
- 2 準備 メラミンスポンジ ストロー ダンボールカッター 皮ポンチ 接着剤 学習プリント 暗箱 白ダンボール2枚

3 展 開

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点（☆は研究上の手立て）
<p>1 本時の活動について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細かい面がたくさんあると、影がきれいになるから、丸く切って惑星にしよう。 <p>2 光の効果を予想したり、暗箱で確かめたりしながら、メラミンスポンジを加工し、自分のつくりたい光の彫刻をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丸く切るのは意外に難しいな。少しずつ角度を変えて、細かい面がたくさんできたから、暗箱で光らせてみよう。 ・丸く光ってきれいだけど、少し切りすぎて小さくなってしまったな。もう少し大きな彫刻をつくりたいな。 ・友達は、ストローでいろいろな形を組み合わせてきれいだな。 ・ストローの長さで光り方も変わるのだな。もっと上の方まで赤く光らせたいな。 ・赤いライトに長いストローを刺してみよう。きっと青から赤に変わるときに、下の方が紫で上の方が赤くなるはずだよ。 ・少し、切りすぎたと思ったけど、ストローでいろいろな形をつなげたら彗星の尾のような感じになってきたな。 ・小さな面がぼんやり光って優しい感じがしてきれいだよ。スポンジ同士がくっついていているところにも影ができて、友達もきれいだって言ってくれたよ。 <p>3 できた作品を光らせて鑑賞し合い、自分や友達の仕事のよさや工夫について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品が並ぶと幻想的できれいだな。 ・最初は、惑星にしたかったけど、小さくなったから、友達のつくり方を参考に、尾が光る彗星にしたよ。ストローの長さを工夫して色が変わるようにしたよ。 	<p>○学習の見通しがもてるよう、前時に描いたアイデアスケッチと、作品を紹介し、デザインの意図について問いかける。</p> <p>☆自分や友達の仕事を見直して気付いたことを基に、試行錯誤を繰り返すことができるよう、加工が容易なメラミンスポンジを用意し、光の効果を試しながらつくるよう促す。</p> <p>☆自然に友達と交流しながら、自分のイメージに合った表現の工夫ができるよう、活動の段階ごとの場を設定し、よさや美しさ、工夫したいことについて話している子どもを賞賛する。</p> <p>○自分のつくりたい光の彫刻のイメージが明確になるよう、暗箱で確かめて感じたこと、表し方やその意図などを問いかける。</p> <div data-bbox="1126 869 1423 1144" data-label="Image"> <p style="text-align: center;"><暗箱></p> </div> <p>○自分の作品や友達の仕事を見て、自分の作品を見直し、新たな自分のイメージに合った表し方を予想することができるよう、様々な表現を試している子どもを賞賛する。</p> <div data-bbox="783 1373 1401 1619" data-label="Text" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">— 評価項目 —</p> <p style="text-align: center;">形や光り方について友達と話しながら、自分のイメージに合わせて、メラミンスポンジを切ったり、付けたりを繰り返している。</p> <p style="text-align: right;"><作品・行動・発言（3）></p> </div> <p>○自分や友達の仕事のよさや美しさ、表現の工夫について気付くことができるよう、全員の作品を胸の高さに展示した鑑賞する場を設定し、作品を見て感じたことや気付いたことを話し合うよう促す。</p> <p>○題材全体の活動を振り返ることができるよう、自分のしてきたことを学習プリントに、話し言葉で記述するよう促す。</p>

指導と評価の計画（全4時間）

目標	材料を切ったり、付けたたりして、光の効果を確かめながら、自分のイメージに合う光の彫刻に表す。		
評価規準	(1) 光を通すメラミンスポンジを切ったり、付けたたりして、つくりたい形になるように光の彫刻をつくる活動に取り組んでいる。 (2) メラミンスポンジの加工の仕方や形による光の効果の違いを捉えて、つくりたい光の彫刻を思い付いている。 (3) 自分のつくりたい光の彫刻になるように、光の効果を予想したり、試したりしながら、メラミンスポンジの加工の仕方を工夫している。 (4) 自分や友達作品のよさや美しさや、表現の工夫について感じ取っている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点（☆は研究上の手立て） 評価項目＜評価方法（観点）＞
であう	2	○メラミンスポンジを切ったり、付けたたりしてLEDライトに載せて光り方の特徴を知り、加工の仕方を試しながら、自分のつくりたい光の彫刻をアイデアスケッチに表す。	○光りのもつ美しさを感じ取ることができるよう、ペットボトルやビー玉などの今までの学習で使ったことのある光りを通す素材と加工する前の直方体のメラミンスポンジを用意する。 ○切ったり、光り方を試したりしながら、自分なりの光の彫刻を思い付くことができるよう、試しの小さなメラミンスポンジを用意する。 ☆試行錯誤を繰り返すことができるよう、光が内部に溜まり、面がぼんやりと光り、エッジが暗くなり、加工が容易なメラミンスポンジを学習材として設定する。
ひろげる・あらわす ふりかえる	2 （本時2／2）	○光の効果を予想したり、暗箱で確かめたりしながら、メラミンスポンジを加工し、自分のつくりたい光の彫刻をつくる。 ○できた作品を光らせて鑑賞し合い、自分や友達作品のよさや工夫について話し合う。	☆光り方を確かめながら、自然に友達と交流して自分のつくりたい光の彫刻のイメージに合った表現の工夫ができるよう活動の段階ごとの場を設定する。 ○自分の作品や友達作品を見ながら自然に話し合うことができるよう、頭を近づけて、意図的に覗き込むことができる暗箱を用意する。 ○自分や友達作品のよさや美しさ、表現の工夫について気付くことができるよう、全員の作品を胸の高さに展示した鑑賞する場を設定する。
共通事項	光り方を試しながらメラミンスポンジを加工し、自分のつくりたい光の彫刻をつくる活動を通して、形や色、光り方に自分なりのイメージをもつ。		